

輸 入 粗 飼 料 の 情 勢

全酪連購買部
購買推進課

北米コンテナ船状況

<フレート>

7月からBAF（Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数：燃料価格変動に対して調整される割増運賃）の値上げが予定されているようです。米国の景気低迷は依然として続いており、米国への輸入貨物の少ない状況は改善されていません。PSW（Pacific South West Area 太平洋側南西部地区）のコンテナ供給は若干改善されてきましたが、PNW（Pacific North West Area 太平洋側北西部地区）のコンテナ供給は依然として厳しい状況が続いています。今後もコンテナ不足の厳しい状況は暫く続くと思われます。

また海上運賃の動向ですが、船会社の輸出入の収支バランスが悪くなってきている事、海上運賃の値下げが限界に来ている事、また下記コンテナ供給の状況から、値上げ基調に向かう可能性があります。

<コンテナ供給状況>

08年末より各船会社とも需要の低迷を受けて、船舶サイズの縮小、船舶数の減少を急激に推し進めました。08年ではアジアから北米への輸出、北米からアジアへの輸出の両方向で荷動きが減少しました。その後今年の2月以降、荷動きが多少増加したため船舶スペースは一杯となりました。3月以降アジアから北米への輸出貨物は増加しましたが、各船会社とも北米からアジア向けの貨物では十分な利益が得られないため、牧草を含めた利益率の低い貨物へのコンテナ供給を絞りました。

| |
|--|
| <p>(往路) アジア→北米への輸出＝儲けの出る（儲けなければならない）“基幹航路” (復路) 北米→アジアへの輸出＝儲からない航路 いわゆる“帰り荷”</p> |
|--|

大まかなイメージとして、09年1—3月期では、往路での動きを100とした場合、復路では50でした。これでは往路の貨物で復路の帰り荷の需要を十分に満たすのではないかと考えてしまいますが、実際には往路100のうち約半分はアメリカ内陸部へ輸送されたり、できるだけ早く往路にコンテナを回したいと考えて

貨物荷下ろし後すぐに空のままアジアへ戻されたりしています。したがって、復路50に対する空コンテナ供給は十分では無い状況です。また往路の100という数字も減少しているため、更に復路へのコンテナ供給状況は悪化しています。

PNWでは産業規模や人口規模の関係から、もともと（カリフォルニア州がある）PSW航路と比べて配船、貨物が少なかったため、今回の状況を受けて空コンテナ



の供給が厳しくなっています。PSWに関して言えば現時点でコンテナ供給がタイトになっている状況ではありませんが、全体の状況を見て7月より海上運賃の値上げを行おうと考えている船会社もあるようです。

シンガポール沖に停泊する船舶700隻 09年4月

UAE需要動向

現在、UAE（アラブ首長国連邦）のアルファルファ需要は年間100万トンとも言われており、その輸入元は主に欧州（主にスペイン、他にはイタリア、ルーマニアなど）でした。欧州産は‘デハイ’アルファ（機械で強制乾燥させたアルファ）ですが、昨今ではその黒めの品質が好まれなくなり、緑色で品質の良い米国産に触手が伸びていると言われています。現状においてUAEが米国産に対して要望している品質基準は、既存の顧客である日本・韓国勢に比べて格段に低く、米国サプライヤーからすると非常に好ましい顧客と言えます。一方で、数量が多だけにデリバリーや取引の継続性の部分でリスクは高いとも分析できます。

UAEへの販売ルートは現在二つ確認されています。

一つは政府入札ルートで、UAE政府から認定された業者が各サプライヤーから安い順に契約する方法です。顧客に対しては政府の補助金も出ているとされています。このルートの対象は主にラクダ、ヤギ、ヒツジ向けのようです。

もう一つのルートは、ローカルの会社へ直接販売する方法です。現地の仲介人を通し、市場へ直接商品を卸すルートです。主な顧客は大型の酪農家で、物流は港から農家へのコンテナ直行が多いようです。

下記表の通り、米国産アルファルファはUAEに向けて驚異的に数量を伸ばして

輸出されていることがわかります。特に今年に入ってから、大量に在庫されたままの08年産の生産農家在庫、サプライヤー在庫が輸出されています。

苦しい在庫処理を強いられた08年産において、各サプライヤーにとっては助け舟となったUAEですが、09年産以降も他のアジア勢（中国、韓国他）のみならず、日本の市場にとっては無視できない新たな大きな存在となってきました。今後の動向に注意が必要です。

米国産アルファルファ輸出量 (MT) 1-12月・2009年は1-3月

| | 2007年 | シェア | 2008年 | シェア | 2009年 | シェア |
|------------|---------------|-----------|----------------|------------|---------------|------------|
| 日本 | 490,106 | 66% | 558,492 | 61% | 187,926 | 57% |
| 韓国 | 134,489 | 18% | 159,352 | 17% | 27,959 | 8% |
| UAE | 27,946 | 4% | 103,419 | 11% | 93,039 | 28% |
| 台湾 | 54,227 | 7% | 51,248 | 6% | 8,182 | 3% |
| 中国 | 2,321 | 0% | 19,348 | 2% | 8,407 | 3% |
| ベトナム | 1,117 | 0% | 1,248 | 0% | 198 | 0% |
| その他 | 38,299 | 5% | 24,951 | 3% | 7,059 | 2% |
| 計 | 748,505 | 100% | 918,058 | 100% | 332,770 | 100% |

ビートパルプ

<米国産>

09年産作付けは、一部地域で降雨のため遅れが発生しています。日本向けの主力となるノースダコタ州では5/27現在86%（約400,000エーカー）の進捗となっており、例年比でかなりの遅れをとっております。ここでは引続き湿度が高い気候の予報となっており、残り14%（約65,000エーカー）の作付けは6/7の週にずれ込む見込みです。この遅れが生育に影響することは避けられませんが、最終的にどの程度の収量となるは今後の生育環境によるところも大きく、状況を注視していく必要があります。まずは発芽までの天候がポイントとなります。その他の地域も、例年より遅れながらもほぼ作付けが終了しております。

<中国産>

韓国の最新輸入通関統計によると、4月の中国産ビートパルプ輸入数量は9,774トンであり、1-4月合計で45,586トンとなりました。1-3月比では若干減っていますが、引続き月間10,000トンペースを維持しています。

日本の4月の輸入数量はまだ発表されておりませんが、1-3月の合計で21,107トンと、韓国に比べてゆっくりしたペースとなっております。4-5月の輸

入数量は限定的と見られ、流通は相当限られたものと思われます。

アルファルファハイ

<ワシントン産>

08年産について、日本国内の荷動きは引続き低調で、サプライヤーとの契約残を含めた産地在庫は依然多いようですが、一方で前述のUAEや、中国等への輸出で在庫整理が進み、スタンダード品が若干ある以外は、ほぼ完売となっています。

小麦の相場が大幅に落ち込んだことから、09年産のアルファルファの作付けは増えたため、15%増と予想されています。春先の低温で収穫が2週間ほど遅れる見込みでしたが、ここ最近の好天で、最終的には1週間から10日ほどの遅れに落ち着いています。

5月中旬から南ベースン地区で、09年産1番刈の刈取りが始まりました。5/18-19に一部地域で降雨がありましたが、大勢には影響がない模様です。品質は今のところ良好で、ひどい雨当たり被害の情報もありません。

米国内酪農家の買付け意欲は低く、輸出向けの市場価格低迷予想から各サプライヤーの生産農家への買付けは、慎重に行っている様子です。あと数週間で09年産の価格が具体的に見えてくると思われますが、今後も収穫時の天候に恵まれれば安値でのスタートが期待できます。但し、余りにも相場が下がりすぎると、2番刈以降に他の作物に転作される可能性もあります。



ワシントン産アルファルファ1番刈圃場

<オレゴン産>

オレゴン州の産地クリスマスバレーとクラマスフォールズは、ともに気候は降雨も

なく概ね良好で、09年産の生育も順調な模様です。クリスマスフォールズは6/10頃から、クリスマスバレーはクリスマスフォールズよりやや遅れて1番刈の刈取りが始まる見込みです。またどちらの産地も6月終盤から7月頭にかけて、収穫後のスタックが出揃う見込みです。09年産の価格については、これからの天候次第で変わってくるため、話をするのは時期尚早のようです。

<ネバダ産>

ネバダ州では、早い生産農家だと5月末の週から09年産の1番刈の刈取りを始めているようです。6/1の週から本格的に刈取り作業が始まるようで、6月中旬にはスタックが出揃う見込みです。北カリフォルニアで降雨があり良品が少なくなったこともあり、ネバダ産へ米国内酪農家の需要が移行する可能性もあります。

<カリフォルニア産>

北カリフォルニアのサクラメント地域では、09年産の1番刈が終了しており、まもなく2番刈の刈取りが開始されるようですが、降雨があったことから約50%程度が雨当たり被害、残りの50%は降雨のために刈取りができずに刈遅れとなっ
てしまい、茎が硬く、高品質なスタックは見当たらないようです。また、湿度が高く、急激に暑くなったため、色目も悪いようです。

インペリアルバレーでは、現在09年産は4番刈りの最中です。5/15時点のエーカーレヅレポートによると130,606エーカーとなっており、前年対比で14%増加となっています。引合いは相変わらず閑散としているものの、輸出向けに一部成約がある様子です。今年は暑すぎる気候のため、全体的に品質は低めで良品が少なく、ドライ過ぎるものが目立って多いようです。

チモシー

<米国産>

08年産について、引続き1番刈の荷動きは順調で、特に酪農プレミアム品の在庫は各サプライヤーともほぼ完売となっています。2番刈の荷動きは引続きスローで、現地在庫は多いようです。

09年産の作付面積は、コロンビアベースンで15%程度の減少、エレンズバーグで若干の減少となると予想されており、総じて生産量は減少すると予測されます。コロンビアベースンの作付け減少の理由は、08年産1番刈以降にスイートコーン（昨年高値）、豆、野菜、アルファルファへの転作が進んだことが挙げられます。

09年産の価格に関しては、各サプライヤーとも安値となる事を期待しつつも、コロンビアベースンでの作付面積減少からのタイト感により、相場が下げ止まるの

ではないかと予想されています。今後の日本からの買付け状況も、価格が決まる重要なポイントとなりそうです。

<カナダ産>

08年産について、中間グレードは在庫に余裕がありますが、それ以外のグレードの荷動きは順調で、ほぼ完売となっています。

09年産は春先の冷涼な気候のため、生育が7-10日ほど遅れています。今後の天候次第ですが、レスブリッジでは刈取りが例年7月上旬のところ、下旬にずれそうな見込みです。昨秋の播種時期には冬以降に資材・肥料コストが下がる見込みでしたが、結果的には高いままで、作付け意欲は高まりませんでした。約10%の作付け減と見込まれています。



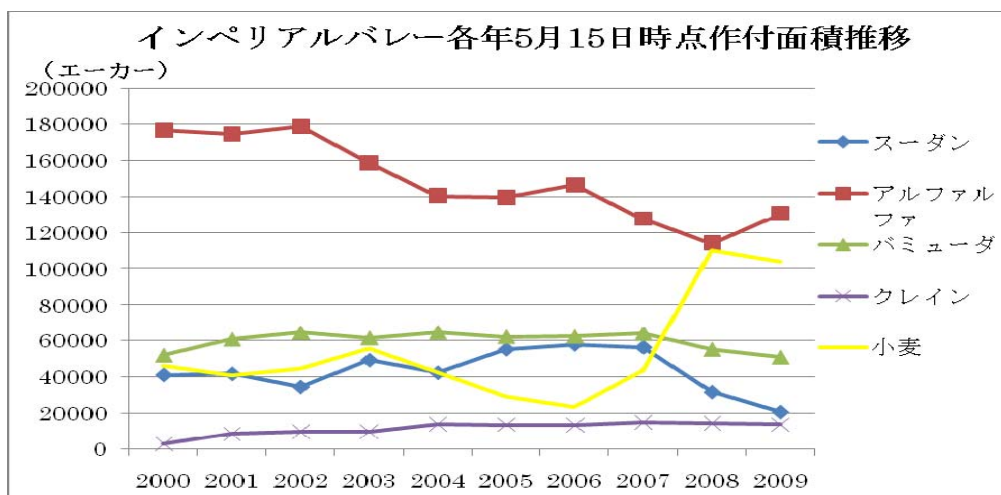
レスブリッジ カナダ産チモシー（5/26撮影）

スーダン

インペリアルバレーでは08年産の荷動きは低調で、特にローグレードの産地在庫が多い様子です。また4月頃から中間グレードの荷動きも低調になっている状況です。ただ09年産では小麦刈取り後に生産する遅まき（通称 アフターウィート）のスーダンが激減することが予想されているため、そのまま保持しておくサプライヤーも少なくないようです。

09年産作付け状況ですが、5/15時点のエーカーレッジレポートによると前年の35%大幅減の20,746エーカー、6/1時点では25,214エーカーとなっています。輸出向け需要の大幅な落ち込み、価格の下落懸念から今後のスーダンの市場価格回復に期待が持てず、多くの生産農家が09年産の作付けを見送っている状況です。前年の08年産も07年産と比較して18,000エーカー減となり話題となりましたが、09年産は更に20,000エーカー減となっており、今

後の生産量が心配されます。



北カリフォルニアでも09年産の作付けが始まりましたが、こちらも前年対比で50%以上の大幅な作付け減の予想となっています。例年はオーツ・ライグラス・小麦の収穫後の作付けとなりますが、輸出向けの市場価格が悪いので、サンフラワーやトマトへの転作が進んでいます。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

09年産は1番刈が始まっています、早く刈り取った圃場は、雑草の混入が見られます。この時期の品質は、必ずしも輸出向け（特に日本向け）とは言えません。エーカレッジレポートによると、5/15時点でも先月と同様に前年対比で5%の減少となっています。09年産の市場価格次第では、生産農家は1-2番刈で生産を終了する可能性もあり、さらなる生産減の懸念が出ています。

バミューダ

08年産の荷動きは相変わらず低調で、産地在庫は余裕があるようです。

09年産はエーカレッジレポートによると、5/15時点でも先月と同様に前年対比で8%の減少となっています。生産量については、種子相場が良くないことと、輸出向けハイ・ストローの荷動きが低調なことから、20%程度の減少が見込まれています。今後は輸出向けの市場価格が悪化すると、バミューダハイとしての供給は減り、そのまま生育させて種を取った後のバミューダストローの供給が増える見込みです。

ストロー類

08年産の産地在庫はライグラスが少なく、フェスキューはかなり余裕があるようです。

09年産のストロー類の作付け動向については、今のところライグラスは20%、フェスキューは15%～20%減少すると予想されています。春先の冷涼な気候のため、生育が例年より遅れていますが、最近の好天により遅れを取り戻しつつあります。順調に進めばライグラスストローは8月初旬に、フェスキューストローは7月下旬に収穫が開始される見通しとなっています。

| オレゴン州ストロー輸出実績 (MT) | 2008年4月 | 2009年4月 | 増減 |
|--------------------|---------|---------|------|
| ライグラス | 25,137 | 19,895 | 79% |
| アニュアルライグラス | 4,451 | 4,334 | 97% |
| フェスキュー | 30,667 | 31,162 | 102% |
| オーチャード | 1,464 | 787 | 54% |
| ベントグラス | 826 | 353 | 41% |
| 合計 | 62,545 | 56,531 | 90% |

| オレゴン州ストロー輸出実績(MT) 国別 | 2009年3月 | 2009年4月 | 増減 |
|----------------------|---------|---------|------|
| 日本 | 26,132 | 25,193 | 96% |
| 韓国 | 27,356 | 30,984 | 113% |
| 台湾 | 500 | 353 | 99% |
| 合計 | 54,160 | 56,530 | 71% |

*ライグラス/アニュアルライグラス/フェスキュー/オーチャード/ベントグラス合計

豪州産オーツヘイ

<西豪州>

5月中旬まで非常に乾燥した天候が続きましたが、中旬以降には北部、南部で20mm程度の降雨があったようです。適度な降雨と比較的温暖的な気候により、播種後の生育は今のところ問題なさそうです。ただ、作付面積については、昨年の降雨被害の影響もあり、生産農家はオーツの作付けには後ろ向きで、09年産は西豪州全体で25%程度減少すると予想されています。

<南豪州>

4月に降雨があり、4月下旬より播種が始まり5月後半には終了しました。若干例年より早いペースとなっています。その後も継続して降雨があったため、土壌の水分は理想的な状況となっています。作付面積については、昨年の作柄が安定していたことからオーツの作付けは比較的好転が予想され、15%程度増加すると予想

されています。

<東豪州（ヴィクトリア州）>

南豪州と同様に4月に降雨があり、4月中旬より播種が始まりました。ただ国内向け需要が多い東豪州ではオーツが広範に栽培されるため、播種は6月中旬までかかる見込みです。作付面積についても、南豪州と同様に昨年の作柄が安定していたことから、15%程度増加すると予想されています。

以 上